





東ティモール「農業用水改善事業」2年次活動報告書

【事業概要】

事業名	農業用水改善事業
対象地域	東ティモール、エルメラ県アッサベ郡の4村内12集落
対象者	12の農民グループ（約220名）と11集落内約2,330名
事業規模	53,189千円（総事業規模：約134,104千円）
実施期間	2020年3月31日～2024年2月13日 *うち、2020年3月31日～同年10月31日の約7か月間は新型コロナウイルス感染拡大に伴い活動休止 - 1年次：2020年3月31日～2022年2月13日 - 2年次：2022年2月14日～2023年2月13日 - 3年次：2023年2月14日～2024年2月13日
主支援元	外務省、支援組織等
事業目標	乾季の水不足を農業用水設備の設置によって解消し、安定的な農作物の収穫を目指す

【主な活動内容】

			
水源を保全し、貯水タンクおよび水路を造ります	点滴灌漑を設置することによって、農地で水を効果的に利用します	点滴灌漑設備を維持管理するための水管理委員会を設置し、能力強化を図ります	水管理委員会およびコミュニティの人々を対象にジェンダー平等研修などを行います

【2年次の主な活動実績】

1年次に支援した5集落の農民グループへのフォローアップを行いつつ、新たに7つの農民グループを支援

▼7集落において、延べ148名の住民が参加し、以下の農業用水設備を造成 これにより、164名（うち女性76名）からなる7つの農民グループが、野菜の年間栽培ができるようになりました。

- ・7つの集落にそれぞれ1基の貯水タンクを設置
- ・各貯水タンクから7つの農民グループの共同農地に水を引き込むパイプラインを設置
- ・計787、5㎡の野菜苗床への点滴灌漑設備を設置

▼7つの農民グループへの土壌管理研修を実施 3日間の研修に、136名が参加（うち女性67名）同時に、複数の野菜の種子および鍬、鋤、熊手などの農具を提供し、苗の移植なども行いました。

〔座学研修〕園芸農業の基礎、堆肥や有機液体肥料の作り方

〔実地研修〕堆肥作り、有機液体肥料作り、苗床作り、畝の作り方、畑周辺の排水路の作り方等

▼7つの集落ごとに、設備維持を目的に水管理委員会を設置 リーダー、書記、会計が各1名と、設備オペレーター3名で構成。それぞれ6人の委員会メンバーの男女比率が50%ずつになるようにメンバーを選出しました。また、145名（うち女性71名）参加のもと、3日に及ぶ保守修繕に関する集中研修を行いました。

〔座学研修〕点滴灌漑で使用する資材、必要な水量の計算方法、堆肥の使用法、保守修繕/洗浄方法

〔実地研修〕点滴灌漑設備を敷設しつつ使用方法の学習（実技）

▼7つの農民グループを対象に、ジェンダー平等研修を実施 187名（うち女性78名）が参加ワークショップでは、性別とジェンダーの違いや性別役割分業、男女に期待されている社会規範、女性に負担が偏っている現状などについて男女に分かれて協議。その後、男女一緒になって、分担できる活動や公平な役割分担について話し合いを持ち、気づきを促しました。また5集落においては、農作業や生活全般に関する活動と意思決定を主に男女のどちらが行うかについて等についても協議。一般的に会合などには男性が参加し発言することが多く、女性の参加は限られているが、「本事業の研修を通じて、自信を持って会合などに参加して発言できるようになった」という女性の声も聞かれました。

【活動写真】



農作業する農民グループメンバー



ジェンダー分析ワークショップの様子



点滴灌漑設備敷設の現地研修



有機肥料の作り方を学ぶメンバーたち



建設した貯水タンクを利用する近隣住民



首都ディリでの日本祭にて収穫した農作物販売

【受益者ストーリー】

カリスト・デ・デウスさん（男性・49歳）

男女の役割や責任について、祖父母の時代のようには女性は家にいるだけだった時代から変化しています。男女が同じ権利を持っていて、意思決定の機会は男女で平等であり、女性が男性に意見をいうことがあれば、男性は聞くべきだと思います。プロジェクトが始まり、男女の権利やリーダーシップや女性も自分たちの課題などについて人前で話すことなど、ジェンダー平等について学んでから、毎日の生活に変化があったと思います。まず、家庭においては、私たちは家事を分担しています。例えば、これまで女性の仕事と考えていた掃除、食器洗い、子どもの世話などを私も行っています。グループ内では、役割分担を見直したり、男女が同じ作業をしたりなどを実践しています。具体的には、男女ともに畑を耕す、畑の柵を作る、野菜を植える、収穫する、害虫駆除をする、収穫した野菜を市場で売るなどの仕事を分担して行っています。



農作業するカリストさん（一番左）

性別に基づく暴力の防止は家族にとってもグループにとってもとても重要だと学びました。暴力は法に反した犯罪なので、家庭内においても、他人に対しても暴力をなくすよう、子どもたちを教育します。

ジョアナ・ドス・サントスさん（女性・30歳）

プロジェクトが始まるまでは、水を汲みに行き、手で水やりをしていました。プロジェクトで、水源から農地まで水を引き、点滴灌漑設備を敷設しました。貯水タンクの建設は、コミュニティ開発の役に立っており、洗濯、水浴び、野菜栽培などに水を使えるようになりました。さらに、有機肥料や有機農薬の作り方や、男女が協力してグループで働くことなどを学びました。

会計、リーダーシップ、農業、ジェンダーについての研修は、初めて参加したので、大変興味深かったです。点滴灌漑も初めて使いました。ビニールハウスや点滴灌漑設備を敷設したことが野菜作りに効果があったと思います。野菜を売って収入を得たり、家族で食べたりできるようになりました。また、カリフラワーやキュウリなどはこれまで植えたことがなかった新しい種子を栽培することもできました。今後は、市場や学校給食に栽培した野菜を売りたいと考えています。



点滴灌漑を設置するジョアナさん

ベアトリス・マガルハスさん（女性・65歳）

1年次に建設した農業用水設備のおかげで、現在もグループ農地では、点滴灌漑を使って水やりを行っています。貯水タンクは生活用水としても使えるので、農業だけでなく、家族のための水汲みの時間も大幅に短縮されました。また、研修に参加して知識を得たり、野菜の種を支給してもらえたりしたことは大変役に立っています。

2年次もグループリーダーとして、野菜栽培を継続するために、グループメンバーと一緒に働くように声かけを行いました。現在は、グループ農地では、レタス、トウガラシ、トマト、葉物野菜を植えています。収穫した野菜は、販売したり、メンバーで消費したりしています。販売すれば、グループの収入になりますし、自分たちで食べれば、自分や家族の栄養になるので、私たちの生活向上に役立っていると思います。



首都での日本祭で他のグループリーダーと共に野菜を販売するベアトリスさん（右から3番目）

点滴灌漑やビニールハウスを提供してもらい、さらに、それらの使用方法やその他様々な有益な研修を実施してもらって大変助かっています。2年次は、野菜の栽培をより頻繁に行うようにした結果、収量も増え、自分たちで消費する以外にも、一部の野菜は販売することができました。良い結果を得るためには、害虫の被害にあわないように、しっかり野菜の世話をすることが大切です。